

## Interview 防災リーダーに聴きました



市民防災リーダー  
おまえ かずよし  
小前一良さん

講習会で学んだことを孫と一緒にしたい

体が元気なうちは、いざというときのために備えたいと思い、市民防災リーダーの講習会を受講しました。実習中心の講習会だったので、とてもためになりました。特に、災害発生時電話がつながりにくいとき、安否確認のため伝言を録音できる「災害用伝言ダイヤル」の体験は、孫が帰って来たときに一緒にやってみたいです。

**災害に対する正しい知識を身に付けよう**

災害に強いまちをつくるため、市では平成24年に「市民防災リーダー」制度を導入しました。

これは、災害に関する知識や技能を習得し、災害発生時に、地域防災の中心となる人を養成するものです。半日の講習で、費用も掛かりません。講習では、災害、気象の仕組みや救急救命について学習。

ヒモやロープの縛り方の実習、災害用伝言ダイヤルの体験なども行います。

市民防災リーダーは、現在368人。市では、今年度、新たに200人の養成を目指しています。

災害に対する正しい知識を持つ人が地域に増えることで、災害に強いまちをつくることができます。

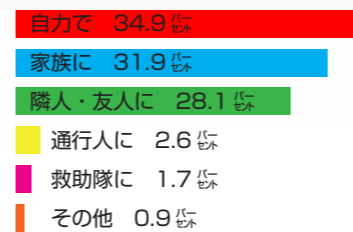
自分や家族、地域を守るために、市民防災リーダーの一員になってみませんか。

自分や家族、地域を守るために

# 風水害に備える

6月4日、宮崎県内を豪雨が襲い、多くの被害がでました。今年は、エルニーニョ現象の影響で全国的に長雨が予想されています。比較的災害の少ない小林ですが、その油断が大きな被害に繋がることも。普段の備えや事前の準備で、被害を最小限に抑えましょう。

表1 阪神淡路大震災のときの救出方法の割合（日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する報告書」より）



**災害に備えて地域で助け合える体制を**

災害発生時、警察、消防や市は全力で救助活動を行います。しかし、「道路がふさがっている」、「情報がうまく伝わらない」などの理由で、救助に行けないことも想定されます。被害を少なくするため、今見直されているのは、公共の助けではなく、個人、地域の連携です。

今、私たちにできることを考える

## 「自助」「共助」で災害から身を守る

阪神淡路大震災のとき、救助隊に救出された人はわずか1.7%。97.5%は、「自助」、「共助」で救出されています。（表1参照）

まずは個人、地域の連携が大切になってきます。

**個人、地域の役割を確認し災害に備える**

個人では、非常持出品の準備や防災メールなどによる情報収集など身の回りの安全対策をしてください。そして、日頃から地域の防災訓練に参加するなど、家族や地域で協力できる体制を確認しましょう。

これから台風や豪雨の多い季節になります。いつ起こるか分からない災害に、事前に準備することが大切です。

あなたはもう準備は出来ていますか？

## 豪雨の危険を知り的確な行動を

**「避難場所の確認」など普段の備えを十分に**

台風や豪雨は突然やってくるわけではありません。「避難場所の確認」、「屋根や外壁の補強」、「非常持出品の準備」、「溝や排水溝が詰まらないよう掃除する」など普段からの備えを十分にしましょう。

**大雨の中の避難は危険 早めの避難を心がける**

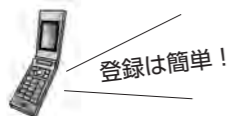
雨風がひどいときに避難するのは危険です。特に、大雨の夜は足元が見えづらく、避難途中で水路にはまり流され亡くなった事例もありません。

雨風がひどくなる前に、下記のことにご注意しながら避難しましょう。

- ◆ 持ち物は最小限にリュックなど使い、両手が使えるようにする
- ◆ 動きやすい安全な服装で動きやすい服装、運動靴で避難する。はだしや長靴は危険です
- ◆ 隣近所で声を掛けあう避難は2人以上でしましょう。はぐれないようにお互いの体を紐でつないで避難することも有効です
- ◆ 水面下に注意  
水面下には、マンホールや側溝など危険があります。長い棒などを使い安全を確認しましょう
- ◆ 水深に注意  
人が歩ける水の深さは、70センチ、女性は50センチです。水が腰まである場合は無理せず、高所で救援を待ちましょう

登録しよう！防災・防犯メール

災害に関する情報を集めよう！



災害が起こる可能性が高いときは、市役所から「避難準備情報」や「避難勧告」、「避難指示」などの重要なお知らせをします。受信するには事前の登録が必要です。いざというときに備え、ぜひ登録してください。



<登録方法> QRコードを読み取ると、メール作成画面が開きます。本文に「ぼうさい」と入力し、送信すると登録できます。